6日　水曜

ヘブル

4:1 こういうわけで、私たちは恐れる心を
持とうではありませんか。神の安息に入るた
めの約束がまだ残っているのに、あなたがた
のうちのだれかが、そこに入れなかったとい
うことのないようにしましょう。
4:2 というのも、私たちにも良い知らせが伝
えられていて、あの人たちと同じなのです。
けれども彼らには、聞いたみことばが益とな
りませんでした。みことばが、聞いた人たち
に信仰によって結びつけられなかったからで
す。
4:3 信じた私たちは安息に入るのですが、
「わたしは怒りをもって誓った。『彼らは決
して、わたしの安息に入れない』」と神が言
われたとおりなのです。もっとも、世界の基
が据えられたときから、みわざはすでに成し
遂げられています。
4:4 なぜなら、神は第七日について、あると
ころで「そして神は、第七日に、すべてのわ
ざを終えて休まれた」と言われ、
4:5 そのうえで、この箇所で、「彼らは決し
て、わたしの安息に入れない」と言われたか
らです。
4:6 ですから、その安息に入る人々がまだ
残っていて、また、以前に良い知らせを聞い
た人々が不従順のゆえに入れなかったので、
4:7 神は再び、ある日を「今日」と定め、長
い年月の後、前に言われたのと同じように、
ダビデを通して、「今日、もし御声を聞くな
ら、あなたがたの心を頑なにしてはならな
い」と語られたのです。
4:8 もしヨシュアが彼らに安息を与えたので
あれば、神はその後に別の日のことを話され
ることはなかったでしょう。
4:9 したがって、安息日の休みは、神の民の
ためにまだ残されています。
4:10 神の安息に入る人は、神がご自分のわ
ざを休まれたように、自分のわざを休むの
です。
4:11 ですから、だれも、あの不従順の悪い
例に倣って落伍しないように、この安息に
入るように努めようではありませんか。

Bible Reference 聖書の記述

イスラエルは神に従わなかったので、安息には
いることはできなかったとあります。しかし実際
には約束の地カナンに入ったのです。ここで言っ
ているのは、永遠の安息であって、神が全てを創
造された後に７日目に休まれたと創世記に記され
ているような、たましいの安息であり永遠の救い
の安息です。
すなわちヘブル人には救いに至るための信仰が
必要なのだということです。私たちに関して言え
ば、救いをいただくために心をかたくなにはしな
いで、福音を信じました。これは神様からの恵み
ですが、私たちはこれを素直に受け取ったのです。
ですから、これからも謙遜な心で神に頼り恵みを
いただき、そして感謝と信頼の心で従っていきま
しょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？